

ブログ「中東と石油」:https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943

ブログ OCIN the Cloud:<https://huangyeyiye.blogspot.com/>

ホームページ OCIN INITIATIVE:<http://ocininitiative.maeda1.jp/>

ホームページ MY LIBRARY:<http://mylibrary.maeda1.jp/>

マイライブラリーNo.:0532

(注)本稿は 2021 年 5 月 4 日、7 日及び 12 日の 3 回にわたりブログ「中東と石油」に掲載したレポートをまとめたものです。

2021.5.18

(ニュース解説)ヨルダン王家に何が起こったのか？

1. 事件の幕開け



4 月 3 日(土)、ヨルダンに激震が走った。現国王の異母弟ハムザ王子の宮廷に軍の幹部が訪れ、反逆罪の容疑で王子に自宅軟禁を命じたのである。BBC 放送が王子の投稿ビデオを放映し、世界中に知れ渡るところとなった¹。ハムザ王子は現国王即位後の 1999 年から 2004 年まで皇太子を務め、国民にも人気のある王族である。

関係者として重要人物 2 名を含む 18 人が逮捕取り調べを受けた。4 月 4 日には副首相が記者会見を行い事件の全容を説明したが²、事件の背後関係、動機等については謎に包まれたままである。

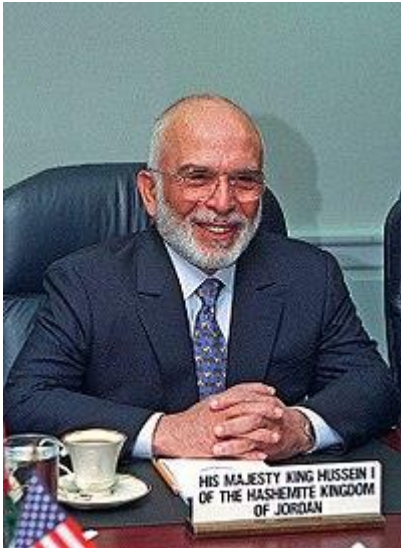
ヨルダンの正式国名は「ヨルダン・ハシミテ王国」であり、国王が預言者ムハンマドの直系と言う由緒ある家系である。第一次大戦後の 1921 年に「トランス・ヨルダン王国」としてオスマン・トルコから独立し、今年で建国百周年を迎える³。

(注)[「ハシミテ家々系図\(預言者ムハンマド～現代まで\)」](#)参照。

ヨルダンそのものは東西南北をイラク、イスラエル、サウジアラビア及びシリアに囲まれ、流動する中東政治に振り回されている小国である。しかも同国は資源に乏しく経済が脆弱な上に多数のパレスチナ難民がいるなど同国は国内外に多くの問題を抱え常に綱渡りを強いられてきた。その荒波を乗り切って今日まで支配体制を維持してきたのがハシミテ王家であるが、王家の内実はかなり複雑である。今回の事件を理解するため、まずはフセイン前国王を中心とする王室の血縁関係を見ておく必要があるだろう。

2. フセイン前国王をめぐる王室の血縁関係

(注) '[Genealogy of Hashemite Kingdom of Jordan](#)' 参照。



アブダッラー二世現国王の父親であるフセイン前国王は、1952年に第三代国王に即位、1999年に病没するまで50年近くにわたり国王の地位にあった。彼の在任中は第二次中東戦争(スエズ戦争)など3度の中東戦争をはじめ、イラン・イラク戦争、湾岸戦争など中東に戦火が絶えなかった。フセイン国王はその激変する時代を巧みに泳ぎ渡り、小国ヨルダンの存在価値を世界に知らしめた。

フセインは生涯に4度結婚している。2番目の王妃は英国人のトニー・ガードナーであり、1962年に現国王のアブダッラーが生まれている。アブダッラーの誕生後、トニー・ガードナーはアラビア風にMuna妃と呼ばれるようになったが、後に離婚した。フセインが即位した1952年時点では男子がいなかったため、実弟のTalalが皇太子になった。彼は今回の事件でアブダッラー二世とハムザ王子の仲を取り持つ重要な役割を果たしている。フセインの4番目の妻Lisa Halaby(通称Noor王妃)との間に1970年に生まれたのがハムザ王子である。Noor王妃は米国ワシントン生まれのシリア・レバノン系米国人である。これでわかる通り、フセインの二人の息子アブダッラー二世(現国王)とハムザの母親は共に外国籍の女性であり、特にアブダッラーは父親(国王)がアラブ人、母親が白人のハーフである。預言者ムハンマドの血統を引くハシムテ家で白人とのハーフの国王は初めてのことなのである。

フセイン国王-ハッサン皇太子の体制は1999年まで続くが、この時次期国王問題で大きな事件が発生した。

3. 二度にわたる皇太子の交代

1999年、癌治療のため米国の病院に入院していたフセイン国王(当時)は余命いくばくもないことを悟り驚くべき行動に出た。ベッドに伏せたまま特別機で帰国した国王は、実弟のハッサン皇太子に因果を含めて退位させ、38歳になった長男のアブダッラーを皇太子に指名したのである。フセイン国王はとんぼ返りで米国に戻りまもなく死去した。

新国王に即位したアブダッラー二世のもとで皇太子になったのは異母弟のハムザ王子であった。当時新国王にはパレスチナ人のラニア王妃との間に長男フセインがいたが、5歳になったばかりだったためハムザ王子を皇太子にしたと言う訳である。アブダッラー二世の時代に入っても9.11テロ事件(2001年)、イラク戦争(2003年)と中東には事件が続発したが、異母兄弟の国王と皇太子は二人で協力して小国ヨルダンに襲いかかる荒波をかいくぐってきた。



ところが 2004 年に再び皇太子交代問題が発生する。国王がハムザに替えて長男フセインを皇太子に指名すると宣言したのである。フセイン前国王の時と全く同じことの繰り返しである。異なるのは皇太子が今回は同母兄弟であり、今回は異母兄弟と言うことである。外見上は皇太子の交代は平穩に行われ不穩な動きは見られなかった。と言うより吹けば飛ぶような小国ヨルダンにとって王室の内輪もめに時間を浪費する余裕などなかった、と言う方が正しい。国王も皇太子もそのことを肌身で分かっていたため、ハムザは皇太子の地位を譲り、アブダッラー二世は長子直系相続をルール化することで将来のお家争いの種を摘み取ったと言えよう。

但し一般的に言えば権力の承継問題は本人同士(今回の場合は兄弟間)が互いに納得すればそれでよし、と言うほど簡単な問題ではない。権力には甘い汁が付きものであり、それを求めて取り巻き連中が必ずうごめく。取り巻き連中にとっては自分のボスが地位を失うことは即死活問題であり、ボスを説得あるいは焚きつけて何とか特権を保とうとする。今回の場合、ハムザ王子の取り巻きがクーデタで国王交代を企図したと考えられないことはない。さらにはハムザの妻、Basmah 妃が陰謀に加担している疑いが無いでもない。Basmah 妃はヨルダン初の女性パイロットである。彼女はカナダ生まれで父親はヨルダン人ビジネスマン、夫ハムザ王子の母親の Noor 元王妃はシリア系米国人である。

ここでアブダッラー現国王の血縁関係を思い出してほしい。国王の母親は純粹の英国女性であり、妻の Rania 妃はパレスチナ難民の医師を父親にクウェイトで生まれた。彼女は大学卒業後ヨルダンでジャーナリストとして働いていた時に当時皇太子であったアブダッラーに見初められ皇太子妃(後に王妃)になったシンデレラガールである。ゴシップ週刊誌風に見れば、Basmah 妃にとって義兄の国王は白人との混血であり、その妻 Rania はパレスチナ難民の子供である。対して自分の夫ハムザは母親がシリア人とはいえアラブ系であることは間違いなく、また彼女自身は生粋のヨルダン人である。預言者ムハンマドにつながる由緒あるハーシム家の後継者としていずれが相応しいか？ Basmah 妃がどう考えたかは分からない。因みに Basmah は事件発覚後亡命先を求めて某国と接触した、と伝えられている⁴。複雑な血縁関係が今回のお家騒動の根幹にあると邪推できるのである。

これが事件のゴシップ風解説であり、お家騒動となれば国家の場合も、財閥の場合も洋の東西を問わず変わりはない。ハーシム家のお家騒動の原因究明あるいは事件の処理方法には謎の部分が多い。

4. 事件の幕引き

事件の翌日、副首相が記者会見で概要を発表した⁵。それによれば軍情報部は傍受したハムザ王子と某外国機関の通信を動かぬ証拠として王子に謀反の疑いありと自宅軟禁を命じた。軍の動きを知った Basmah 妃は某国高官に国外逃亡手段を要請したのであった。副首相はその国名を明らかにしていない。当局は18名を国家反逆罪で逮捕し、その中には元財務・計画大臣及び王室と密接な関係を有する重要人物2名が含まれていた⁶。

軍部はハムザ王子の逮捕を国王アブダッラー二世に進言した。しかし国王は、これはハシミテ家内部の問題であるとして、叔父ハッサン殿下の助けを求めた。先に述べた通り、かつてハッサンは実兄フセイ

ン前国王の強権でアブダッラーに皇太子の地位を明け渡しており、なんとも皮肉なめぐりあわせである。しかしハッサン王子は今やハシミテ家の後見人として、小国ヨルダン王国の安泰に欠かせない人物である。ハッサン王子は甥のハムザを自邸に呼び、国王に詫びを入れるよう説得した⁷。



結局、ハムザ王子は自筆署名入りの声明文を発表、異母兄の国王に歯向かうつもりは全くなく取り巻きの口車に乗せられただけだと釈明した⁸。4月7日、国王は、ハムザ王子は家族の一員であり、自分の庇護のもとにあるとTVで放送した⁹。さらに11日のヨルダン独立百周年の記念式典に国王とハムザ王子が揃って列席する写真が公表されている¹⁰。続いて当局は捜査を終結し逮捕者18名のうち重要人物2名を除く16名を釈放すると発表した¹¹。その後、5月初めには国王顧問2

名の退任と新たな王室長官が任命され、事件に決着がついたことをうかがわせる¹²。事件は多くの謎を残したまま幕が引かれたのであった。

5. 事件の背後にあるもの

謎の多いお家騒動ではあったが、最大の謎は関与したとされる外国がどこか、と言うことであろう。副首相は Noor 妃が外国機関と国外逃亡を相談したと説明しており、当局が事実関係を把握していることは間違いない。

一つヒントとなるのは未釈放の王室と密接な関係があるとされる人物である。彼の名前は Sharif Hassan bin Zaid。

事件前まで彼は国内でほとんど無名であった。その後の報道によれば彼はサウジアラビアに住んでいたことがあり、サウジとヨルダンの二重国籍を持ち、アブダッラー二世国王のサウジ駐在代表の地位にあったとされる¹³。このことからサウジアラビアが今回の事件にかかわっていた可能性が高い。但し、事件がサウジアラビアの現国王あるいはムハンマド皇太子に直結しているかどうかは不明である。関与する外国機関とその人物名は今後も永久に秘匿されるであろう。

ヨルダンはサウジアラビアとも国境を接しており、政治的に見ればイスラエルを含めた3か国の関係は非常にデリケートである。最近ではイスラエルがUAEなど湾岸君主制国家と国交を回復、サウジアラビアも水面下で和平を探っているというのがもっぱらの見方である。その結果、パレスチナ問題は隅に追いやられた感がある。多くのパレスチナ難民を抱えたヨルダン、そしてパレスチナ人を王妃に持つアブダッラー二世は微妙な立場にある。

と同時に今のヨルダン経済は非常に厳しい。昨年のヨルダンの公的債務は374億ドルに膨れ上がり、GDPの76%に達している。失業率は25%、若者に限れば55%の高さである¹⁴。石油・天然ガスなどの資源に乏しいヨルダンは、サウジアラビアなど豊かな湾岸諸国に出稼ぎに行くか、あるいはこれらの国からの経済援助を当てにせざるを得ない。

お家騒動が深刻化すれば「ヨルダン・ハシミテ王国」が危うい。預言者ムハンマドの末裔としてハシミテ家を存続させることこそ生き残る唯一の手段なのである。

(完)

本件に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

荒葉一也

Arehakazuya1@gmail.com

¹ Jordan prince was asked to stop destabilizing ‘activities’

<https://www.thepeninsulaqatar.com/article/03/04/2021/Jordan-prince-was-asked-to-stop-destabilizing-%E2%80%98activities%E2%80%99>

2021/4/3 The Peninsula

² Jordan says prince liaised with ‘foreign parties’ over plot to destabilize country

<https://www.arabnews.com/node/1837401/middle-east>

2021/4/4 Arab News

³ 「ヨルダン・ハシミテ家の構図」(MENA の王族シリーズ) (2003 年 6 月) 参照。

⁴ Prince Hamzeh, inner clique’s attempts to undermine security, stability foiled — deputy PM

<http://jordantimes.com/news/local/prince-hamzeh-inner-cliques-attempts-undermine-security-stability-foiled-%E2%80%94-deputy-pm>

2021/4/5 The Jordan Times

⁵ Jordan says prince liaised with ‘foreign parties’ over plot to destabilize country

<https://www.arabnews.com/node/1837401/middle-east>

2021/4/4 Arab News

⁶ Prince Hamzeh, inner clique’s attempts to undermine security, stability foiled — deputy PM

<http://jordantimes.com/news/local/prince-hamzeh-inner-cliques-attempts-undermine-security-stability-foiled-%E2%80%94-deputy-pm>

2021/4/5 The Jordan Times

⁷ Prince Hamzeh vows loyalty to King, Hashemite legacy

<http://jordantimes.com/news/local/king-entrusts-prince-hassan-deal-issue-prince-hamzeh-%E2%80%94-royal-court>

2021/4/6 The Jordan Times

⁸ Statement signed by Jordan’s Prince Hamza pledges support to King Abdullah II

<https://www.arabnews.com/node/1838001/middle-east>

2021/4/5 Arab News

⁹ Prince Hamzah ‘in my care’ at his palace: Jordan King Abdullah II

<https://www.arabnews.com/node/1839151/middle-east>

2021/4/7 Arab News

¹⁰ Jordan's King Abdullah II and Prince Hamza make first joint appearance since rift

<https://www.arabnews.com/node/1841111/middle-east>

2021/4/11 Arab News

¹¹ Jordan releases 16 defendants in 'sedition' case

<https://www.arabnews.com/node/1847161/middle-east>

2021/4/22 Arab News

¹² Jordan's Royal court appoints Jaafar Hassan as director of king's office, accepts 3 resignations

<https://www.arabnews.com/node/1854561/middle-east>

2021/5/6 Arab News

¹³ Jordan .. Who is Sharif Hassan bin Zaid? – Erm News

<https://www.saudi24news.com/2021/04/jordan-who-is-sharif-hassan-bin-zaid-erm-news.html>

2021/4/4 Saudi 24 NEWS

¹⁴ Jordan public debt reached 85% of GDP in 2020

<https://www.arabnews.com/node/1843481/business-economy>

2021/4/15 Arab News